

授 業 科 目 名	保育内容指導法 (健康)	教 員 名	城戸 佐智子	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
授 業 形 態	演習	配当年度	2 年次後期	卒 業 要 件	こども音楽療育士	選択
科 目 番 号	FOI203				小幼コース	選択必修
単 位 数	2 単位				幼保コース	必修
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又は 事 項 等	・ 保育内容の指導法					
科 目	告示別表第 1 による教科目					
系 列	保育の内容・方法の理解					
一 般 目 標	幼稚園教育要領に示されている、領域「健康」のねらいと内容について理解する。幼児期の子どもの体の発達や心の発達に関して理解する。 (1)領域「健康」のねらい及び内容 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 (2)領域「健康」の指導方法と保育の構想 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
到 達 目 標	(1)領域「健康」のねらい及び内容 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「健康」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2)保育内容の指導方法と保育の構想 1)幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5)領域「健康」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 別表第 1 の「保育内容演習」の教科目を指導法（健康）・指導法（人間関係）・指導法（環境）に分けたものであることを理解する。養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれの関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことを「健康」の領域で取り扱うことを理解する。 アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。					

ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。
授 業 計 画	第1回：領域「健康」のねらいと内容① 3法令に共通する改定ポイントを押さえ、国が目指す幼児教育について学ぶ。領域「健康」のねらいと内容についてワークシートを通して理解する。(目標(1)-1)) 第2回：領域「健康」のねらいと内容② 領域「健康」のねらいと内容について映像を用いながら、具体的な指導について学ぶ。(目標(1)-2)) 第3回：基本的生活習慣の獲得のための援助① 子どもの発達を見るうえで重要となる基本的生活習慣の形成について理解し、園生活での具体的な場面を想定しながら自立に向けての援助の仕方を考える。(目標(1)-2), (2)-1), (2)-2)) 第4回：基本的生活習慣の獲得のための援助② 園生活での具体的な場面を想定し、幼児の発達に合わせた援助方法を考え、グループ討議で協議しながら理解を深める。(目標(1)-2), (2)-1), (2)-2)) 第5回：幼児の生活と発育・発達 幼児の生活や健康に関する現状や問題を学び、理解する。その上で、幼児の発達を促すために、保育者としてどのような支援ができるか考える。(目標(1)-2), (2)-1), (2)-5)) 第6回：乳幼児期における運動発達と運動遊びの援助① 乳幼児期に運動遊びを行う重要性を理解し、幼児教育で実際に行っている運動遊びを体験する。幼児が十分に体を使って遊ぶ環境について考える。(目標(1)-1), (1)-2), (1)-4), (2)-1)) 第7回：乳幼児期における運動発達と運動遊びの援助② 年齢ごとの運動発達段階を理解し、各年齢で行う望ましい運動遊びについての援助方法を考え実践する。幼児期運動指針の内容を理解する。(目標(1)-2), (1)-4), (2)-1), (2)-3), (2)-4), (2)-5)) 第8回：安全管理と安全教育の必要性① 乳幼児の健康状態の把握の仕方や日々の健康観察の大切さ、集団感染しやすい感染症や乳幼児に多い疾病と生活の中での指導や対策について具体的な場面を捉えながら理解する。(目標(1)-1), (1)-2), (2)-1), (2)-5)) 第9回：安全管理と安全教育の必要性② リスクとハザードの違いについて理解を深め、園の施設の安全管理を行う視点や幼児が自ら気を付けて安全に過ごすための教育についてのあり方について理解する。(目標(1)-1), (1)-2), (1)-4), (2)-5)) 第10回：乳幼児の健康を育む保育指導計画案について① 保育指導案の立て方について学び、実際に乳幼児の健康を意識した指導案を作成する。(目標(2)-1), (2)-3), (2)-4), (2)-5)) 第11回：乳幼児の健康を育む保育指導計画案について② 立案した指導案を、年齢、発達、ねらい、内容、援助方法などの視点からグループで協議しながら、指導案を乳幼児の発達に合った活動に修正する。目標(2)-1), (2)-3), (2)-4), (2)-5)) 第12回：模擬保育及び事後研究① 作成した指導案をもとに模擬保育を実践する。子ども、保育者、参観者の立場から意見交換し、良かった点や改善点、評価の観点などについて事後研究を通して気づき、保育者としての実践力を身に付ける。(目標(1)-1), (1)-2), (1)-3), (1)-4), (2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4), (2)-5)) 第13回：模擬保育及び事後研究② 作成した指導案をもとに模擬保育を実践する。子ども、保育者、参観者の立場から意見交換し、良かった点や改善点、評価の観点などについて事後研究を通して気づき、保育者としての実践力を身に付ける。(目標(1)-1), (1)-2), (1)-3), (1)-4), (2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4), (2)-5)) 第14回：模擬保育及び事後研究③

	作成した指導案をもとに模擬保育を実践する。子ども、保育者、参観者の立場から意見交換し、良かった点や改善点、評価の観点などについて事後研究を通して気づき、保育者としての実践力を身に付ける。(目標(1)-1), (1)-2), (1)-3), (1)-4), (2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4), (2)-5)) 第15回：まとめ 今まで学習してきた内容について、実際に幼児の映像を見ながら復習し、理解を深める。(目標(1)-2), (2)-2), (2)-5)) 期末試験
学生に対する評価	期末試験50%、レポート提出50%で評価し、60%以上を合格とする。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授業外学習について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 事前学習：毎回、講義する内容について事前にテキストのページを指定するので、入念に予習し、不明な点等を明確にしておくこと。 事後学習：講義内容に沿ってレポートや小テストを課すので、自己の学習内容について振り返り、返却されたレポート等はファイルしておくこと。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。
テキスト	最新保育講座7『保育内容 健康』河邊貴子 柴崎正行 杉原隆 編著 ミネルヴァ書房 自作の教材を適宜配布する。
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
担当者からのメッセージ	乳幼児の発育・発達をしっかりと理解し、保育実践を通して保育のあり方を学んで欲しい。
オフィスアワー	授業日の放課後 Email : skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp